

経口免疫療法（7）

経口免疫療法を行っている方には、衝撃のニュースが、先月報道されました。神奈川県で、入院して牛乳の経口免疫療法を行い、毎日 135ml の生牛乳が飲めるようになった子どもが、退院して3か月後に喘息発作が出たために気管支拡張剤を吸入し軽快、その2日後に生牛乳を 135ml 飲んだ後、苦しさを訴え呼吸停止となった、今も低酸素脳症で治療を続けている、という記事です。新聞報道以上のことは、今はわかりませんが、ここには、二つの問題点があると思います。

一つは、ここでも何度も取り上げましたが、耐性獲得のレベルは体調によって大きく変化するという事です。感染症も無く、他のアレルギーも出ておらず、睡眠不足、過食、ストレス、等免疫力を低下させる状況も無く元気な時に安全に食べられる量と、体調の悪いときに安全に食べることのできる量は 10 倍から 1000 倍程の違いがあります。特に生牛乳は再発しやすいので注意を要します。私共は生牛乳 200ml が可能になり、IgE 抗体もほとんど消失してきた場合でも、特別な場合を除き、生牛乳は止めて、その他の乳製品（シチュー、ヨーグルト、チーズ、バター、クリーム等）のみを可能として再発を防いでいます。それでも再発する場合がありますので、湿疹、喘息、鼻炎、下痢、腹痛、不機嫌、嫌がるなどの傾向があれば再発のチェックにおいていただいています。10 月は運動会で使用する石灰の吸入で喘息発作を起こす子どもが多い事も留意しなければいけません。

もう一つは、治療の目標です。私共は誤食によるアナフィラキシーを、起こさないようにする事と、除去食によるストレスを、軽減する事を目標にしています。もともと牛乳が体に合わない子どもに毎日生牛乳をたくさん飲ませる意義は何だろうと思います。牛は昔から日本にもいましたが、牛乳を飲む食習慣はありませんでした。牛乳は子牛のものであって人の飲むものでは無いと。現在、栄養学的にも多くの疑問が出されているのです。

この頃、学校や保育所の給食でも、不可解な対応がなされるようになってきています。生牛乳のみ止めるという事は認めない、生牛乳を飲まないのであれば、牛乳成分が入っているパンも、おかずもデザートも食べられない、というものです。確かに、一人ひとりの除去の段階に応じて給食を提供することは煩雑で間違いが起りやすいため、除去か除去でないかの二者択一しか認めない、ということも理解できます。しかし生牛乳（牛乳パック）のみ止めるのは煩雑なんでしょうか。このように、牛乳を飲まない、という事に対する見せしめ的対応には、驚きを禁じ得ません。さらに言えば、ご飯給食の時にも牛乳を飲ませるとは、どんな食育を行っているのか心配になります。

詳しい事がわからない段階での私の意見ですが、経口免疫療法を行っておられる方は無理をせず、体調をよく観察し、おかしいなと思ったならすぐに診療を受けてください。